

2013DUOリーグ通信 No.8

2013年は皆さまにとってどのような1年でしたでしょうか。DUOリーグにとっては、これまで前期、後期の2シーズン制で行っていたリーグ戦を、前期はリーグ戦、後期はフリーサイズフットボール大会と新しい形式にチャレンジした「挑戦の年」「遊び心を取り戻す年」だったのではないかと思います。2014年もどうぞよろしくお願いたします。

DUOリーグホームページ: <http://www.duoleague.com/>

2013年度後期フリーサイズフットボールチャンピオンシップ結果

12月22日に筑波大学附属高校にて後期フリーサイズフットボールの各大会チャンピオンおよび特別枠チームが集まり、チャンピオンシップを行いました。

<出場チーム>

【大会優勝該当チーム】

- ①午前2時のオーバーラップ(本郷) ②小石(都立小石川) ③都江北 A(都立江北) ④足立西
⑤足立学園 B ⑥筑波 A(筑波大附属) ⑦昭和一 A(昭和第一)

【特別参加枠】

- ⑧城西大城西: 雨で延期になってしまったが、大会を主催予定だったチーム
⑨豊南高校: 加盟クラブ代表(1位にはなっていないが加盟クラブとして最も成績が良かったチーム)
⑩石川(小石川 B): 最多出場チーム

優勝は午前2時のオーバーラップ(本郷)



午前2時のオーバーラップ(本郷高校)が、たとえ午前2時まで試合が延長しても走り続けるという名前の由来通りのエネルギッシュなプレーを最後まで続け、決勝では筑波AをPK戦で破って優勝。優勝トロフィーとして、DUOリーグオリジナル履けなくなった靴でできた履けるトロフィーが贈呈されました。その他の結果は、2位筑波A、3位石川、4位豊南でした。

2013年度後期DUOリーグ各賞受賞者

MVP: 村田捷行(午前2時のオーバーラップ:本郷)

受賞理由: チームをキャプテンとして優勝に導き、最後戦でもゴールを決めた。

ベストオーガナイザー: 灘侑佑(筑波大附属2年生)

受賞理由: オーガナイザーとして運営面で最も貢献。

※ 受賞者2名には靴型トロフィーのレプリカが送られます。

※ 今回は、MIP、特別賞、優秀審判賞の該当者はいませんでした。



後期チャンピオンシップと並行して、校舎内では東京リゾート&スポーツ専門学校より講師をお招きしてストレッチ&テーピング講習会を開催しました。

2013 年度後期 DUO リーグ会議ダイジェスト

12月22日にチャンピオンシップに続いて、DUO リーグ会議が行われました。詳細については、DUO リーグホームページなどで「2013 後期 DUO リーグ会議議事録」をご覧ください。

◆来年度リーグについて

- ・TリーグについてはこれまでT3までだったものが、来年度からT4ができます。
- ・地区トップリーグは各地区から2チーム×8地区=16チームが上がって構成します。DUOリーグからは、学習院・都江北・豊島学院・京華の4チームが参戦します。
- ・2013年度前期の結果により2014年度前期DUO1部リーグに都江北B、都江北Cが参戦します。
- ・2014年度後期DUOリーグは今年度と同じような形でワンデーフリーサイズを、11人制を増やすことと、大会回数を増やすことを意識しながら実施します。

◆研修会など

- ・12月22日にストレッチとテーピングの講習会を行いました。(企画部より)
- ・2~3月にリサイクルプロジェクト「記念品づくり」を企画しています。(企画部より)
- ・DUOリーグ主催の審判講習会を3月9日に城西で行います。(審判部より)
- ・限られたスペースでのトレーニングをテーマにした講習会を行います。(技術部より)
→今後実施の研修会などについては、詳細が担当者よりメールリストにて送られる予定。

◆経理関係(事務局より)

- ・審判費および会場運営費、また加盟費等の領収書をお渡ししています。
- ・まだ参加費等お振込みいただいていないクラブは大至急振込をお願いいたします。
- ・審判費については本日1000円としてお渡しして、差額は次回の会議の際にお渡しします。

⇒ 次回 DUO リーグ会議 : 3月2日(日) 17:00~19:00 筑波大附属高校
(1部リーグ日程調整会議を同日 DUO 会議終了後に実施予定)

チェアマンより (DUO リーグ会議後のコメント)

1. 会議での発言が少なすぎる

年3回だけの、皆が顔を合わせる場です。もっともっと大人からの発言がほしいですね。

特に各クラブの状況については「アンケートに書いたからいいや」でなく、生の声で伝えてほしかったと思います。こちらから指名して発言を求めることはあえてしませんでした。自分たちで作っていくリーグです。DUO 会議のムードが残念でした。

ちなみに DUO リーグを言いだしてチェアマンを名乗ったころ、大先輩が周りに大勢おられました。私はいろいろ考え、どんどん提案し、突き進んでいたように思います。「若手」と言われる方々の奮起に期待したいところです。

2. 「レフェリー」について改めて考えましょう

一人審判の議論の中で、気になったことがあります。

各学校で独自のスタイルで行われていたフットボールのルールを統一しようと、1863 年に関係者で集まり、組織 (FA) とルールができました。そこには、してはならないこと (反則) は記されていましたが、罰則は決めていませんでした。自分たちが決めたルールを破ることは、紳士としてはあり得ないからです。

審判はいません。セルフジャッジです。プレーヤー自身がルールに沿って判断する段階です。

一つの勝利に大きな意味が付与されるようになってきたとき、もめごとが起きる可能性が生じます。もともとあいまいさを残したルールですから、グレーゾーンは多々あります。もめごとはまず両チームの関係者で調整していましたが、最終的には第三者に委ねる形となりました。委ねられた人のことをレフェリーと言います。プレーヤーは、レフェリーに委ねたのだから、レフェリーの決定に従います。レフェリーは大きな責任を持つのです。一人審判であろうが三人制であろうが、委ねられたことには変わりはありません。だからレフェリーの決定は最終的なものとなります。

委ねたのなら、プレーヤーが勝手に判断してプレーをやめてしまうのはおかしい話です。海外のユースレベルで、一人審判制の有用性としてよく言われるのは、「笛が鳴るまでプレーを続ける習慣を身につけさせる」ことです。勝手にファールだと判断してプレーをやめてしまう選手に対してよく言われることです。

DUO 会議の話の中で、セルフジャッジを進める場合のプレーヤーの姿勢と、レフェリーを置いた場合のプレーヤーの姿勢がごっちゃになっていたのが気になりました。改めて議事録を読み返して、まずはそれぞれでお考えください。改めて意見交換しましょう。

さて、今年もあと数時間でおしまいです。

DUO リーグにとっては新たなトライの年でした。新たな年も、よりよいものを求めて進んで参りたいと思います。2014 年もどうぞよろしく願いいたします。

2014年もよろしく願いいたします。